

## 加ドル、加中銀の政策会合に注目

- ◆英政府、19日のコロナ規制の撤廃を決定するか
- ◆ポンド、6月の雇用・インフレデータに注目
- ◆加中銀、来週の会合で国債購入額を縮小する可能性も

### 予想レンジ

ポンド円 149.00-154.00 円

加ドル円 86.00-90.00 円

### 7月12日週の展望

英政府は来週、19日にコロナ規制を撤廃するかどうかを正式に決定する予定だが、ジョンソン英首相は予定通り制限措置を撤廃すると表明している。19日から在宅勤務指示は解除され、ナイトクラブなどの営業再開が容認されるほか、イベント施設などの収容人数制限も解除される見通しだ。ジャビド英保健相は、コロナ新規感染者数が今後大幅に増加し、夏場には1日の感染者数が10万人に達する可能性を警告した。このようなリスクを指摘しながらも、平時に戻る準備を進めている英政府の戦略は「ギャンブルだ」との見方も少なくない。19日の規制撤廃が決定されても、コロナ新規感染者数の拡大が続いていることもあり、素直にポンド買いにつながる可能性は低いだろう。上値の重い動きも、方向感に限られそうだが、リスクオフが一段と進む可能性には注意が必要だ。

来週は、6月の雇用、インフレデータの発表が予定されている。5月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.1%と2019年7月以来の伸び率となり、イングランド銀行(BOE)のインフレ目標2.0%を上回った。BOEは「インフレ高は一時的」との見方を維持しているが、原油高が物価上昇に拍車をかけることになる。原油高が止まらなければ、物価上昇見通しに変化をもたらす可能性があるだろう。

加ドルは来週のカナダ中銀(BOC)金融政策会合に注目。4月の会合では国債購入の減額を決定し、22年後半にも利上げに踏み切る姿勢を示したことで加ドル高が進んだ。6月は米連邦準備制度理事会(FRB)がタカ派姿勢を強めたことから、加ドルは対ドル・対円で反落。7月に入っても上値の重い動きが続いている。金融政策報告書も発表される来週のBOC会合では、国債購入額を一段と縮小させるとの見方も出ている。スワップ市場では現在過去最低の0.25%にある政策金利は今後5年以内に約2%まで上昇すると見込まれている。BOCが今週発表した調査によると、コロナ禍で大きな打撃を受けた企業は、ワクチン接種の進展に伴い売上高が回復するとの見方を強めており、企業景況感の改善が続いていることが示された。

5日の石油輸出国機構(OPEC)と非OPEC主要産油国で構成する「OPECプラス」会合では増産をめぐり合意に至らず、供給不安への警戒感が強まっている。今週の原油相場は不安定な動きとなっているが、8月からの増産に対する不透明感が払しょくされなければ、原油価格は100ドルに到達するとの見方も出ている。資源国通貨の加ドルは原油価格の動きにも要注意だ。

### 7月5日週の回顧

株価・債券市場の調整に伴い、クロス円で円の買い戻しが優勢となり、ポンド円は150円後半、加ドル円は87円前半まで下落した。ポンドドルは小動きも1.37ドル半ばまで下落するなど上値の重い動き。6月英サービス部門PMI改定値は62.4に上方修正され、6月英建設業PMIは66.3と1997年以来の高い水準となった。ドル/加ドルは原油価格の下落も重しに1.25加ドル後半まで加ドル安となった。6月カナダIvey購買部協会景気指数は71.9と前回は大幅に上回った。(了)